

2023年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球の500hPa高度をみると、対流圏の極渦は分裂し、東シベリア～北米北部で負偏差となった。中緯度帯では波列パターンが卓越し、ヨーロッパ西部、南アジア北西部付近、東アジア東部、アラスカの南海上で正偏差となった。200hPa風速をみると、亜熱帯ジェット気流は、南アジア北西部付近、日本付近で北に蛇行した。海面気圧をみると、日本付近～北太平洋の中緯度帯は正偏差となった。アリューシャン低気圧は平年と比べて北寄りに位置した。850hPa気温をみると、西・中央シベリア付近、南アジア北西部付近、米国東部で高温偏差、東シベリア～北米北部で低温偏差となった。30hPa高度をみると、成層圏の極渦はユーラシア大陸西部側にずれ、中旬には成層圏大規模突然昇温が発生した。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、東南アジア付近で活発、太平洋赤道域の日付変更線付近～中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インド洋東部～太平洋東部を東進した。対流圏上層では、太平洋熱帯域の中部で南北半球対の低気圧性循環偏差となった。北半球の亜熱帯ジェット気流に沿って波列状の偏差パターンが見られ、日本付近で高気圧性循環偏差を伴っていた。対流圏下層では、インド洋～

インドネシア付近で南北半球対の低気圧性循環偏差が見られた。海面気圧は、熱帯域では、インドネシア付近～太平洋西部で負偏差となった。南方振動指数は+1.0だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.30℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、2月として4番目に高い値となった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.81℃/100年(速報値)である。

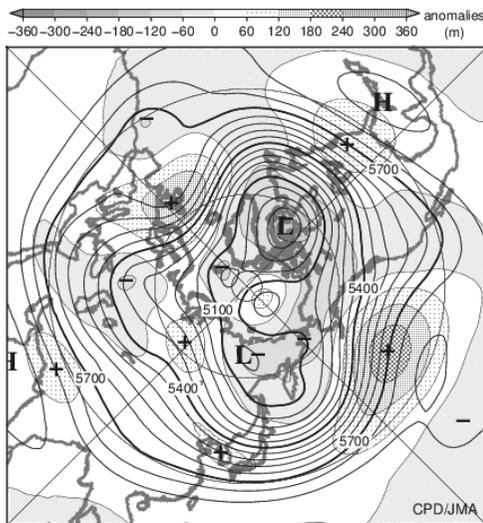
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- パキスタン～アラビア半島南東部、米国北東部～キューバで異常高温、カナダ北東部、米国西部で異常低温となった。
- インドネシア東部、カザフスタン西部～ロシア南部で異常多雨、ヨーロッパ北西部～南西部で異常少雨となった。

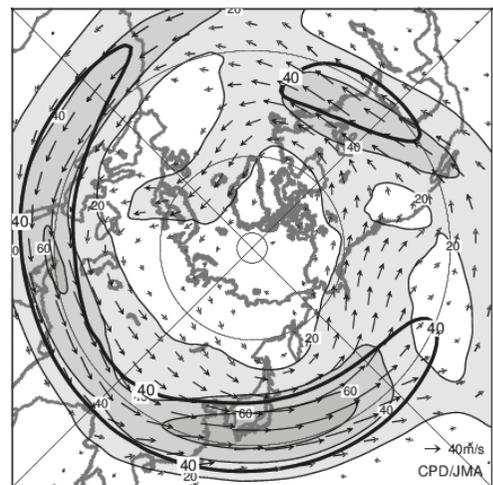
(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

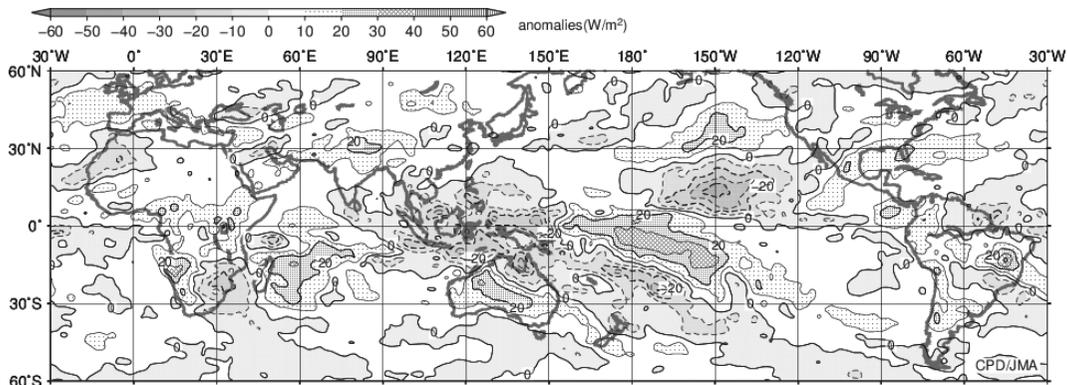
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/diag/sokuho/index.html>



2023年2月の北半球月平均500hPa高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
 1991～2020年の平均値。

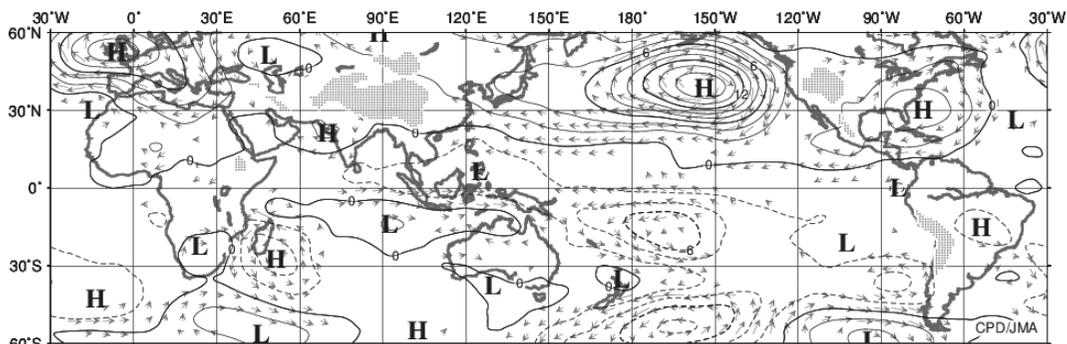


2023年2月の北半球月平均200hPa風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は20m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は40m/s。平年値は1991～2020年の平均値。



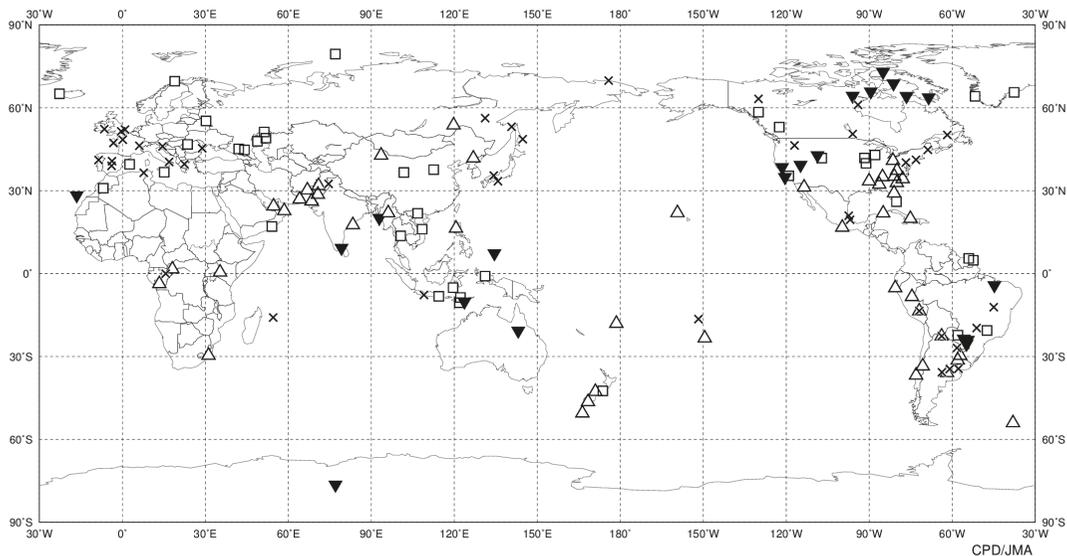
2023年2月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1991~2020年の平均値。



2023年2月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1991~2020年の平均値。



2023年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。